

## イタリア 日本がイタリア産キウイの輸入を認める可能性

FRUITNET 2023年11月15日

イタリアは、両国の外交官や貿易担当官を巻き込んだ協議を経て、1つの重要な新市場の開拓に向けた第一歩を踏み出した

在日イタリア大使館が11月13日(月)に主催したオンラインセミナーに参加した複数の関係者によると、イタリア産キウイフルーツの輸出業者は間もなく日本へのアクセスを獲得する可能性がある。

国連コムトレードデータベースによると、日本は2022年に合計約11万2千トンのキウイフルーツを輸入した。その大多数である約86%はニュージーランドからの輸入であった。

貿易の専門機関であるCSOイタリアの国際関係部門の責任者シモーナ・ルッビ氏は、市場がいずれ両手を広げて歓迎するだろうという明るい兆しがあると述べた。

ルッビ氏は、「日本側としてキウイフルーツを輸入する必要があることを考えると、このセミナーの開催は、市場が開かれる素晴らしい兆候であることは間違いない。今後は、この取り組みが最短時間で適切にフォローアップされ、イタリア産キウイフルーツを日本のような興味深い市場に輸出できる可能性があることを願っている」とコメントした。

同氏は、CSOのパオロ・ブルーニ会長及びエリサ・マッキ部長とともに、このイベントにバーチャルで出席した。ブルーニ氏は、「これは、生産、輸出、品質、技術、そして何よりもその専門性と能力の面で、イタリアのキウイフルーツ産業の強さを示す機会であった」と説明し、「また、何にも増して、新しい市場の開拓と植物検疫上の障壁の除去に必要な技術的側面に特に重点が置かれた」と付け加えた。

### 多数の参加者

CSOの会員の多くがセミナーに参加したことは、日本市場の可能性に対する強い関心を裏付けるものであった。

実際、この組織に関係するキウイフルーツ輸出業者のほぼすべて(Fruitimprese、Salvi-Unacoa、Granfrutta Zani、Apo Conerpo、Agrentità、Alegra、Naturitalia、Apofruit Italia、Jingold、Kiwi Sole、Cico Mazzoni、Zespri等)が参加した。

東京の会場ではジャンルイジ・ベネデッティ駐日大使がイタリア側を代表し、(以下は輸出促進ミッションで訪日中)エミリア・ロマーニャ州のステファノ・ボナッチーニ知事、アレツォ・マツミ同州農業審議官、ヴァルティエロ・マツツォッティ同州総務官が参加した。

一方、ローマの農業省からは、ブルーノ・カイオ・ファラリア植物保護担当役員とミケーレ・フジッコ政策技術アドバイザーがオンラインで出席した。

日本の農林水産省の二国間交渉担当官も出席し、日本市場に青果物を輸入するための様々な手順や、輸入品の検査について説明した。

執筆者: マイク・ノールズ